

## 海外安全対策情報（ポルトガル・2023年10月～12月）

### 1 治安情勢等及び邦人被害の状況

#### (1) 治安情勢等

##### ア 2022年の犯罪発生状況

2022年の一般犯罪認知件数は343,845件で、前年比14.1%（42,451件）増加し、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年と比較すると2.5%増加しました。

凶悪重大犯罪の認知件数は13,281件で、犯罪全体に占める割合は3.9%です。前年比では14.4%増加しましたが、2019年と比較すると7.8%減少しました。

認知件数が増加した犯罪の中では、特に路上強盗及びひったくり強盗が目立ち、凶悪犯罪全体の53%を占めています。

また、家庭内暴力は前年比15%（3,968件）、集団犯罪（3人以上の犯行による犯罪）は18%（898件）、青少年犯罪は50.6%（567件）、それぞれ増加しました。

若者による犯罪では、強盗、窃盗、暴行及び増加傾向にあるサイバー犯罪でブラジル人による犯行がそれぞれ目立ちました。

イスラム過激主義関連では、ポルトガル国内においてテロ組織や関係者の存在に係る兆候はありません。その一方、ポルトガル在住の若者が、TelegramやViberを通じ、テロ関連情報や関係者への接触を試みる事案が報告されています。

##### イ 2023年の犯罪発生状況

##### (7) 家庭内暴力事件

2023年1月から9月までの家庭内暴力事件の認知件数は23,306件で、男性3人と子供1名を含む18人が亡くなりました。2020年以降、認知件数は2万件前後で推移しています。

##### (4) リスボンで窃盗犯逮捕

治安警察庁（PSP）リスボン首都圏本部では、2018年3月からスリ対策専門チーム（F3C-Força Conjunta de Combate a Carteiristas）を立ち上げ、スリ対策を強化しています。これまでの逮捕件数は487件で、約300万ユーロ相当を回収、逮捕者のうち80人が未決勾留となっています。専門チームは、8人の専従捜査官と各警察署からの応援捜査官により構成されており、責任者のネルソン・シルヴァ警部によれば、同チームはスリだけでなく、ホテルやレストランでの窃盗や貴金属店での詐欺などの様々な犯罪に対応しているということです。

##### (ウ) 青少年犯罪の現状

司法警察庁（PJ）によると、2023年上半期に発生した青少年グループによる殺人事件（未遂を含む）は、殺人事件全体の21%を占めています。

2023年上半期に捜査した殺人事件は38件（うち29件が未遂）で、そのうち8件が「ギャング」間の抗争に起因していました。2022年に発生した殺人事件は75件（うち59件が未遂）で、そのうち青少年の集団に関するものは16件でしたので、比較すると半減しています。

これを受け、ジョゼ・ルイス・カルネイロ内務大臣は、「『ギャング』による殺人事件は激減した。」とコメントしました。

しかし 2023 年 10 月 14 日に発表された 2023 年 1 月から 8 月までの犯罪認知件数（暫定値）では、PSP 管轄区域での青少年犯罪が 15.7%（+57 件）増加しており、特に「ギャング」による犯罪に関しては、PSP の管轄区域では 1.8%、GNR 管轄区域内では 35%増加し、合計で 1,989 件発生しています。

#### (I) ポルト島の犯罪増加

ネット・ゴウヴェイア PSP ポルト大都市圏本部長の就任式に出席したジョゼ・ルイス・カルネイロ内務大臣は、ポルト本部への 136 人の警察官の増員を明らかにしました。これにより、同本部所属の警察官数は約 3,200 人となります。

2023 年 1 月から 8 月までのポルト県における犯罪認知件数は、前年同期比で増加しており、薬物密輸（前年同期比+34.9%）、インターネット詐欺（前年同期比+42.7%）、飲酒運転（前年同期比+25%）などの増加が目立ちます。同大臣は、「10 年前と比較して、人口は倍増しているものの、犯罪は 11.6%減少しており、安全であることに変わりがない。」と強調しました。また、犯罪の増加の原因として、コロナによる行動制限の緩和、戦争などに起因する物価上昇とそれに伴う生活環境の悪化などを挙げています。

#### (II) アマドーラ市内での犯罪減少

PSP によると、2017 年から 2022 年にかけて、アマドーラ市内において発生した凶悪犯罪は 60%減少しており、この減少は監視カメラの設置によるところが大きいとみています。2017 年の凶悪犯罪の認知件数は 772 件でしたが、2022 年は 474 件、2023 年は 300 件前後と減少が見込まれています。

現在アマドーラ市では、141 台の監視カメラが稼働しています。

#### (III) インターネットを悪用した詐欺の現状

PSP によると、2023 年に入ってから 11 月 23 日までの間、既に「オレオレ詐欺」等のインターネットを悪用した詐欺の容疑で 31 人を逮捕しており、これは前年同期比の 3 倍ということです。インターネットを悪用した詐欺の被害届は 10,910 件を受理しており、2019 年以降の 5 年間で約 4 万 7 千件の被害届が提出されています。ネット詐欺は増加傾向にあり、高齢者だけでなく、幅広い年齢層がターゲットとなっています。

#### (IV) 薬物事犯

##### a 新薬物法の発効

合成薬物に関する非犯罪化及びそれら薬物の使用・取引に係る新たな区別等を盛り込んだ新薬物法が 2023 年 10 月 1 日に発効しました。10 日分に相当する薬物を所持していた場合、密売か自己使用かを裁判所が判断し、不起訴とした場合には治療施設に送られることとなります。

##### b 地下鉄駅での薬物使用

リスボン市内を運行する地下鉄赤線の複数の駅では、構内の階段に座り込み、薬物を使用する 30~40 代の常習者が散見されます。モスカヴィーデ駅の利用者によると、20 人前後が駅構内で薬物を使用しているということです。

##### c 空港における薬物密輸

PJ 薬物密輸対策本部によれば、コカインの密輸が増加傾向にあり、2022 年の押収量は過去最大の 16.3 トンでした。PJ は摘発を強化しており、リスボン空港において、2021 年は 3 人、2022 年は 21 人、2023 年は、11 月 4 日現在、8 人を逮捕しています。

国際的な薬物密輸組織による空港職員の懐柔が深刻で、逮捕しても、また別の職員が密輸に加担するという状況が続いているとされています。その背景には、月額 700~800 ユーロという賃金に比べ、5 千~1 万ユーロという成功報酬の高さがあります。

#### (ク) 速度違反の摘発

2023 年上半期にポルトガル国内の自動速度取締器により摘発された速度違反は 39 万 5 千件を超えており、これは 1 日平均 2,185 件となります。過料の最低額は 60 ユーロで、単純計算では約 2,370 万ユーロの過料が徴収されたこととなります。違反件数は前年同期比で 39.2%増加、飲酒運転も前年同期比で 10.6%増加しています。

### ウ 防犯対策

#### ・ リスボン市内における監視カメラの設置

リスボン市長が明らかにしたところによると、2024 年中に同市内に更に 97 台の監視カメラが増設されます。カイス・ド・ソドレ、レスタウラドーレス、リベイラ・ダス・ナウス、カンポ・ダス・セボラスの 4 区域に集中的に増設されます。更に、コメルシオ広場やプラッタ通りなど 11 地域への 112 台の監視カメラの設置に関する公共入札も実施される予定です。ポルト市内についても、設置区域の拡大が予定されています。

また、2023 年 11 月 17 日、リスボン市長と PSP リスボン首都圏本部長は協定を結び、2025 年までに同市内に 242 台の監視カメラを設置することで合意しました。

#### (2) 邦人被害

2023 年 10 月から 12 月の間、大使館に届出があった邦人の犯罪被害件数は 9 件で、いずれも窃盗の被害でした。

リスボン市内バイシャ地区、オリエンテ駅付近又はベレン地区において発生しており、バックパックやショルダーバッグ内から旅券や財布を抜き取られ盗まれる被害です。

路上や観光スポットはもちろん、高級ホテルのロビーにも窃盗グループが常駐し、犯行の機会を窺っています。路上演奏を聴く際、写真を撮影する際、チケットを購入する際、食事を摂る際等、バッグは常に視界に入る場所に持ち、被害に遭わないよう気をつけて下さい。

## 2 報道された主な凶悪犯罪

### (1) 強盗

- 10 月 19 日、オエイラス市内アルジェス地区において、19 歳と 21 歳の 2 人組が通行人の男性を脅し、所持品を奪った上、被害者に自分の母親へ電話させ、MBWay で送金させたもの。
- 10 月 25 日夜、エスポゼンデ市内を通る国道 13 号線上において、2 人組が、通行中の乗用車を停車させ、運転手に散弾銃を突きつけ脅し、乗用車を奪って逃走したもの。

- 10月25日14時半過ぎ、カスカイス市内エストリル地区にあるタマリス海岸への連絡通路において、62歳の男性が2人組に拳銃を突きつけられ、現金や携帯電話などを奪われたもの。
- 11月23日20時過ぎ、リスボン市内ブラジリア通りにおいて、通行人が3人組に拳銃を突きつけられ、450ユーロ相当の所持品を奪われたもの。
- 11月26日3時過ぎ、ポルト市内の路上に停めた乗用車内にいた30歳の男性が、2人組に刃物を突き付けられ、ポルト市内からポヴォア・ド・ヴァルジンまで37時間にわたり連れ回された上、現金の引き出しや送金を強要されたもの。

### (3) ひったくり

- 11月30日白昼、リスボン市内アルミランテ・レイス通りにおいて、女性と子供が4人組に囲まれ、鞆を奪われそうになったもの。
- 12月17日4時半過ぎ、リスボン市内ドカス・デ・サント・アマロ地区の飲食店街において、女性が店から出てきたところを男に鞆をひったくられたもの。

### (4) すり

- 10月30日、リスボン市内バイシャ地区において、観光客がリュックから420ユーロ相当の金品を盗まれたもの。
- 11月8日午前、リスボン市内サン・ジョルジュ城近くにおいて、女性が鞆から10ユーロが入った財布を抜き取られ、更に別の観光客も現金入りの財布を抜き取られたもの。
- 11月9日午前、アウグスタ通りにおいて、女性が鞆から財布を抜き取られたもの。

### (5) その他

- 11月30日1時過ぎ、リスボン空港近くのホテルが、50人程の木棒などを持った黒づくめの集団に襲撃され、ガラスドアなどが破壊された。集団は、某サッカーチームのサポーターとみられ、同ホテルが相手チームのサポーターらの宿舎だったことが襲撃の理由とみられる。

## 3 テロ・爆弾事件発生状況

ありません。

## 4 誘拐事件発生状況

外国人を標的とした政治目的、身代金目的等誘拐事件の把握はありません。

## 5 対日感情

良好です。

## 6 日本企業の安全に関する諸問題

外国籍（日本資本を含む）企業が、犯罪に巻き込まれた情報の把握はありません。